

2026年度 第2次	博士課程前期課程(一般・外国人留学生)入学試験問題	科目	経済学専門科目	試験時間	90分
------------	---------------------------	----	---------	------	-----

問1

ある財の需要関数と供給関数がそれぞれ

$$q = 10 + \frac{10-p}{a}$$

$$q = 10 + \frac{p-10}{b}$$

で与えられるとする ( $p$ と $q$ はそれぞれ財の価格と数量を表し、 $a$ と $b$ はそれぞれ正の定数である)。以下の各問に全て答えよ。

(a) 縦軸を  $p$ 、横軸を  $q$  として、需要曲線と供給曲線を市場均衡価格と均衡数量の値と共に同一平面に図示せよ。また、それぞれの傾きを求めよ。途中の計算式や説明も書くこと。

(b) 従量税率  $t$  の消費税がこの財の取引に課せられたとする。このとき、消費者による消費税負担と生産者による消費税負担を比較し、消費者の負担が生産者の負担より小さくなる条件を求めよ。途中の計算式や説明も書くこと。

問2

2つの財(第1財と第2財)、2人の消費者(AさんとBさん)からなる交換経済を想定し、ワルラス法則について考える。 $i$ さん( $i=A, B$ )の2財の初期保有は $(w_1^i, w_2^i)$ であり、価格 $p_1, p_2$ のもとで財を交換し、消費点は $(x_1^i, x_2^i)$ となるとする。2人の予算制約式がそれぞれ等式で満たされ、第1財市場が均衡するとき、第2財市場も均衡することを、対応する3本の数式だけから導け。

問3

短期の閉鎖経済を考える(物価水準は一定で1とする)。 $C$ を消費支出、 $I$ を投資支出、 $Y$ をGDP、 $r$ を金利水準、 $G$ を政府支出、 $M$ を貨幣供給量と表す。消費関数を $C = 4 + 0.8Y$ 、投資関数を $I = 6 - 20r$ 、貨幣需要関数を $L = 30 + 0.5Y - 50r$ 、貨幣供給量を $M = 40$ 、政府支出を $G = 2$ とする。以下の各問に全て答えよ。

(a) IS曲線とLM曲線を求め、縦軸を $r$ 、横軸を $Y$ として、それらを均衡金利( $r^*$ )と均衡GDP( $Y^*$ )の値と共に同一平面に図示せよ。また、それらの傾きも求めよ。途中の計算式や説明も書くこと。

(b) 限界消費性向が上で示された値より低い場合、IS曲線の傾きにどのような影響があるか。式を用いて詳しく説明せよ。

2026年度 第2次	博士課程前期課程(一般・外国人留学生)入学試験問題	科目	経済学専門科目	試験時間	90分
------------	---------------------------	----	---------	------	-----

問4

以下の各問に全て答えよ。

(a) 人口と技術の水準が一定の場合のソローモデルを考える(技術水準は1とする)。1人当たりの生産関数を  $y = k^\alpha$  とし、貯蓄率を  $s$ 、資本減耗率を  $\delta$  とする(ただし、 $y$  は1人当たり生産量、 $k$  は1人当たり資本を表し、 $\alpha$  は定数で  $0 < \alpha < 1$  とする)。定常状態の1人当たりの資本( $k^*$ )を求めよ( $k^*$ を  $\alpha, s, \delta$  で表せ)。途中の計算式や説明も書くこと。

(b) 下の表は各年の実質 GDP ( $Y$ )、資本( $K$ )、労働( $N$ )の水準を示したものである。生産関数がコブ・ダグラス型  $Y = AK^\alpha N^{1-\alpha}$  であり、 $\alpha = 0.3$  のとき、成長会計の手法を用いて全要素生産性 ( $A$ ) の成長率を求めよ(計算式も書くこと)。また、このように求められた全要素生産性の成長率は何と呼ばれているか。

	実質 GDP	資本	労働
2020年	2000	600	700
2021年	2300	630	770